

2012年7月1日 「墮落しなかった本然の理想安着」 石川祐司教会長

<訓読のみ言>

『平和の主人・血統の主人』

平和の王の場所が着地すればそれで終わる

知ることが必要なく、求めることが必要なく、今はもう結末をつけて、すべてを教えました。教えるのが大変なので教材を作ったのです。この本（自叙伝）一冊でもってどうすべきでしょうか。アメリカでこの一冊だけを中心として、アメリカ大統領が「あなた方は、家庭から幼稚園まで、親たる者はこの本を教えなさい」と言うのです。十二人の息子どころか、三十数人もの子供がいるのです。三十数冊の本によって、お父さんとお母さんが、十三数の代表、十二弟子が反対して殺されたその立場を代表し、王権を中心として、天の国の権限を代行し、王権を代行する者として、その子供を中心に教えるのです。

「坊や、よくお休み。夢の世界、億万世界、万世をお前のために準備しているので、お前の王族となり、部下となり、一族になるだろう」という、このような歌をたくさん作るのです。歌を作るのです。

サタン世界における花のようなものであり、香りのようなものです。花と香りが美しいのですが、そこに実まであって、蘇成・長成・完成の三つです。神様を中心とした種、それから花と香りを中心としたカイン、美を中心としたアベル、その三つが一つとなって、そのようなものを代わりに受けて生まれた男性と女性は、夫婦となって合わさることによって天地合徳となり、天地に余すことなく平和の王の座が着地し、初めて地上に父母様が着地するのです。そうなれば終わりなのです。

天地が地天になるのです。人間世界は孫が祖父の立場に代わり、父親が息子の立場に代わります。逆さになって安着することによって、本然の位置に初めて安着し、永遠にどこに行っても、定着的な因縁が世界の果てまで結ばれるのです。安着の種を植え、自然に天の国が芽生え、大きく成長し、天国の完成の位置に移される子女を生んで、共に天国に入ってこそ、墮落のなかった本然の理想、創造理想世界の位置に、再創造され、完成して入っていくのではないのでしょうか。これ以外の理論はありません。これ以外の真理はなく、これ以外の血統的因縁もありません。